

地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000） 交付決定事業一覧（12月8日受付分）

団体名		事業名	交付予定額	融資予定額	金融機関	地域課題	事業概要	新規性・モデル性・公益性
1	長野県 小諸市	空きビルを活用した新たな関係人口創出のための官民連携まちづくり拠点整備事業	25,000 （国費 12,500 地方費 12,500）	30,000	八十二銀行	<ul style="list-style-type: none"> 交通インフラ（新幹線駅）が整備されなかったことにより、既存店舗の撤退、空き店舗の増加、人口減少などが課題。 昭和40、50年代に流行った区分所有建物で構成された商店街が老朽化し、活用するにも区分所有（権利関係等）であることが原因で、特に規模の大きいビルが活用できず、遊休不動産になっている。 人口減少の抑制のための移住促進も行政だけでは効果が薄く、協力事業者や地域の人たちの力が必要になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ビルを活用し、ゲストハウス、カフェ、チャレンジショップを設置し、移住・創業支援、関係人口を創出するまちなか相談窓口としての新たに機能。 カフェでは地元の人気店監修の地域に根ざしたメニューの開発・提供や地元ワイン等を提供することで特産品の魅力を発信する。 空きビル（区分所有建物）を購入・修理する事業者と空きビル内で事業を実施する事業者が連携し、地域課題解決（移住促進・創業支援）に向けた事業を行政と連携して運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地に多い空きビルを活用することで、類似施設への民間投資が高まり、遊休不動産が解消し、地域が活性化する。 実際に移住した者が移住政策に民間の立場で促進することで安心・信頼・つながりが持ちやすい。また、行政の負担が軽減。 子育て中の母親や地元高校生など地域内の雇用創出に繋がり、シビックプライドが醸成され、人口流出を防止できる。
2	香川県 小豆島町	フードロス削減、空き家活用による瀬戸内産海産物、農畜産物加工食品の製造およびEC販売事業	7,776 （国費 5,184 地方費 2,592）	7,900	香川銀行	<ul style="list-style-type: none"> 小豆島において都市部へ人口流出に歯止めがかからず労働人口減少、高齢化が顕著となっている。 人口減少により地域に空き家となった古民家が点在している。 一次産業（漁業・農業）における規格外品、廃棄原料が発生しておりフードロス削減の観点からの再利用が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家（古民家）をリノベーションし、加工食品製造所及び事務所を整備。 地元事業者等と連携し、瀬戸内産の海産物（いわし、えび等）を使用した新たな加工品や地元農畜産物の加工食品製造販売事業を展開することで、小豆島のブランドを積極的に発信する。 地元農畜産物加工品の原材料には、地元産品の廃棄対象品や廃棄対象部位、規格外品を使用することで、フードロスも削減。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の事業利用のモデルケースとなれば、移住者を中心とした小規模創業を目指す人々への創業支援、移住支援、空き家活用の3つの効果が期待できる。 地元漁業・農業者や事業者との連携により、地場産品の販売や活用が広がり、小豆島ブランドのPRや観光振興に繋がる。 漁業、農業従事者との連携から、規格外品、廃棄原料を使用した加工品の創出によりフードロス削減および一次産業生産者への貢献につながる。
3	福岡県 柳川市	遊休地・遊休施設活用に向けた、土壌に頼らない農水産事業の確立	9,957 （国費 6,638 地方費 3,319）	9,972	大牟田柳川信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> 遊休地、遊休施設の効果的な再活用問題に対し、効果的な活用法が見いだせていない状況。 柳川市では、2032年までに小中学校を合わせて14校の廃校が予測されており、その跡地活用が急務。 問題解決には、「第二次柳川市後期基本計画」における「政策目標4 柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり」推進に直結する事業が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 養殖施設を整備し、海水を使用しないクルマエビの陸上養殖事業と土壌によらないきくらげ栽培事業を確立させるとともに、新商品の開発を行う。 有明海産のクルマエビを、独自のシステムを活用して陸上で養殖し、安心安全で栄養価が高いものに育てる。また、地域内から仕入れたきくらげの菌床栽培から成育までを土壌を使用せずに実施し、栄養価が高く競争力のあるものに育てる。 育てたきくらげ・クルマエビの新たな6次加工には、由来のある戦国武将とコラボさせ、商品バリエーションの拡充と他商材との差別化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業に伴う雇用創出により、若者の流出を防ぐことに繋がる。 地域資源である特産品（柳川ブランド）を活用した産学官連携事業にて、加工/6次加工商品開発による特産品増加に繋がる。 確立した養殖技術を将来的には遊休地や遊休施設で運用することにより、今後発生することが確実である廃校問題の解決に繋がる。

42,733 47,872